

1 開会

(1)事務局からの冒頭説明

事務局

会議の開会に先立ちまして市長からひと言ございます。よろしくお願いいたします。

呉市長

皆様、今日は貴重な時間をいただきありがとうございます。先日も京都・神戸・金沢と視察に行っていたいただきありがとうございました。皆様から色んな意見が出ることを期待しております。

事務局

それでは、これより幸町地区総合整備検討有識者会議第4回会議を開会いたします。

福永委員は本日オンラインでの参加となっております。岡委員につきましては本日欠席となっております。

今日の会議は、お配りしております次第のとおりに進め、終了は20時を予定しております。議事の内容につきましては会議録を作成し、後日ホームページに掲載いたします。

また、会議録には発言者名を記載しますので、ご了承いただけますようお願いいたします。

それではここからの議事進行は田中座長よりお願いいたします。

田中座長

座長を務めております田中です。よろしくお願いいたします。

本日は、議題が4件、その他報告が2件、全6件ということで少し多くなっております。この中には、中間とりまとめを行いたい議題もございます。円滑に議事を進行してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議題は4つございます。

1つ目は、第2回の先進地視察について、ご参加いただいた委員の皆様からご意見・ご感想いただければと考えております。

2つ目の議題は、11月17日に開催された第3回呉市立美術館あり方検討委員会の報告を、横山副座長よりお願いしたいと考えております。

3つ目の議題は、幸町地区全体の整備コンセプトのとりまとめとなっております。前回の会議でのご意見・ご提案を踏まえ作成した事務局の案をもとに、この会議としての中間とりまとめが行えたらと考えています。

4つ目の議題は、幸町地区に求める機能、新たに追加する機能のとりまとめとなっております。こちらも前回の議論をもとにした資料をベースに、この会議の議論として中間とりまとめを行えたらと考えております。

よろしくお願いいたします。

2 議事

議題(1) 第2回先進地視察の報告

田中座長

資料2をご覧ください。第2回先進地視察の報告資料を配布しています。

先進地視察は、資料1枚目にも記載のとおり、6施設を2日間で訪問しました。本日は議事が比較的多いため、限られた時間とはなりますが、参加された委員の皆様から視察を振り返ってのご意見・ご感想などをいただきたいと思えます。何か印象に残ったことなどがあればお願いします。

小野委員

自分の観点からすると、建物の躯体そのものに目を向けるよりは、市民協働や市民が主体的に係わることを促す装置としての機能を各施設が持っている事例を、比較的多く見ることができたことが非常に良かったと思っていますし、そのような場所は必要ではないかと改めて思いました。

特に神戸はデザイン、金沢は工芸のまちということについて、歴史的にも土地の背景が全く違いますが、デザインと工芸は、結局、産業であり経済の一部だと思います。デザインと工芸、産業・経済を発展させるためには、下地となるクリエイティブな考えが確実に必要であるということを、まちとして戦略的に実践していると感じました。呉は、アートと産業・経済などを、あまり結びつけて考えられないところがあると、感覚的に思っています。

この度視察したまちでは、クリエイティブなものを生み出すために、まちが促す装置を、文化的・歴史的に考えた上でタイミングを見ながらしっかりと作ったのではないかと感じています。

文化度が高い・低いなどと良く言いますが、文化度の高さや文化的であるという状態は、そこに存在しているのではなく、そのまちが作ろうとして作っているということが非常に必要ではないかと感じました。

一番行きたかったのは、24時間稼働365日開いている金沢市営の施設の金沢市民芸術村でした。市民が文化的な活動を行う上で、練習ができる場所を設けているところが素地となり、まちがつけられていくイメージを拝見しました。しっかりと、この有識者会議の中で活かしたいと思える視察でした。

田中座長

ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。

河崎委員

特に印象に残ったのは、神戸市のデザインクリエイティブセンター神戸 K I I T Oです。デザインを柱としており、建物の中もデザインが統一されている点が、とても心地良いと感じました。

また、「ちびっこうべ」というキッズニアをモチーフにしたような、こども向けのイベントや、高齢者の方向けの料理教室など、ソフトの部分もすごく良いと感じました。

十数年続けられており、段々とブラッシュアップされている点から、箱（ハード面）だけではなくソフト的な運営面や、コンセプト・芯となる部分をしっかりと決めていかないと、ぶれてしまうと思いました。市民参加、市民を活かしているという部分が良いと感じました。

河崎委員	<p>金沢市民芸術村についての、お金を稼がないという部分は、金沢のまちが観光面で既に出来上がっているまちだからこそ可能な部分でもあると思いました。このため、青山クラブに置き換えると、市民と観光、お金を稼げる部分をつくりたいと思いました。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。</p>
松野委員	<p>建築の構造が専門であるため、建物をどのように残しているのかという観点から、いろいろと見させていただきました。</p> <p>特に石川県立歴史博物館では、3棟あるレンガ造りの建物の補強方法が全て異なっている点を、大変興味深く見させていただきました。建物の使い方によって適切な工法を選ばれているのではないかと考えながら見ていくと、用途を決め、用途に合った残し方をしっかりと議論していく必要があると思います。</p> <p>外観がしっかり残っていれば、建物があつたことが分かり、人々の記憶もそのまま残る。建物の中をどのように使うかはこれからしっかりと議論し、例えば、建物の形は多少変わるかもしれませんが、どこかの階層を吹き抜けとして使ったとしても、保存していくことは十分意義があると感じました。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。</p>
小野委員	<p>補足ですが、先ほど、建物というよりも市民協働の観点と言ってしまいました。建物の持つ力というものも重要だと思っています。</p> <p>中身があれば新しい建物で良いのかという話では無いとも思っています。特に、先ほど説明した金沢市民芸術村は、その当時の市長が、一度解体が決まっていた建物に関して、使う（保存する）ことを決定され、若者のために使うことになったと担当の方も言われていました。建物が持つ価値と、建物の中に何を入れていくのかを、両輪でしっかりと考えたいと改めて思ったところです。</p> <p>金沢 21 世紀美術館で印象的だったのが、市の担当の方のお話で、市民が使える場所にしたいと思ったが、観光のインバウンドの柱になるような場所になったことが嬉しいことでもあり、これから改修を考えた時には、どのように市民ユースに近づけていくのか考えていかなければならないと悩まされていました。市民が楽しい施設を作ったら、結果的に観光名所になることを教えていただいたような気がして、ひとつのヒントだったのではないかとと思っています。</p>
田中座長	<p>今お話を伺っていて共通しているのは、まちとしてのコンセプトが、施設に繋がっているという点が大事であると思いました。</p> <p>もうひとつは、神戸市のK I I T Oについて、人が集まるというだけでなく、そこからさらに東遊園地などのエリアへの活動にも繋がっており、エリアとしてのまちづくりにも繋がっているという辺りの街との一体感を、今回の幸町地区でも何か仕掛けられると良いと思いました。</p> <p>それでは、議題（1）についてはひと通りご意見をいただきましたかと思っておりますので、次の議題に参りたいと思います。</p>

議題(2) 第3回呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告

田中座長

続いて、議題(2)の先日開催された、第3回呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告について、横山副座長よりお願いします。

横山副座長

資料3をご覧ください。11月17日に開催された第3回呉市立美術館あり方検討委員会の議論の概略として、会議資料3の中の資料1の1ページ目を参照しながらお聞きいただきたいと思います。

美術館は基本的機能として、資料を収集し、保管し、展示し、調査研究する機関であることが重要です。また、社会教育機関としての機能もあり、一般公衆の利用に供し、その教養の調査研究・レクリエーション等に資するための必要な事業を行うものでもあります。

1982年の呉市立美術館の開館に際しては、残念ながら美術館の基本的な機能を満たした施設・設備が十分でなかったことを反省し、リニューアルを進めることが必要となります。

基本的機能に関しては、収蔵庫、展示室、資料室などがあり、作品が置かれる箇所には、文化財保護の観点から、空調設備や充実した照明設備が必要です。

また、社会教育施設では、講座室、ホール、アトリエなどがあり、その他の設備として、喫茶・レストラン、ミュージアムショップ、駐車場等があります。

この多様な機能を果たす美術館リニューアルについて、委員会としては幸町地区で美術館をリニューアルすることを前提としたいと考えます。その理由としては、既に40年以上もこの地に美術館があり、市民にとっても馴染みの場所となっているだけではなく、呉市の中で幸町地区を文化ゾーンまたは社会教育地区として明確に位置付けて整備することが必要だからと考えるからです。新しい美術館は、しっかりと基本的機能を持たせ、幸町地区全体で社会教育的な役割を果たす施設を整備することを提案したいと考えます。

例えば、講座室、ホール、アトリエ、喫茶室・レストラン、ショップ等は、新しい美術館の中にある必要はありません。幸町地区にあれば周辺の施設、機能で補えるという判断です。また、呉市の社会教育施設としては、1984年に開館した呉市生涯学習センター(つばき会館)がありますが、この施設も老朽化等の問題があるようですので幸町地区に機能を移転し合体させる等、多くの可能性があることを指摘しておきます。

(会議資料3の中の)資料2をご覧ください。

検討委員会では、美術館のリニューアルに際しての機能と設備の具体的な案の検討を始めています。

「その1」は、現在、美術館別館の地下にある収蔵庫は、運用面だけではなく、費用の面からも幸町地区に移転する。その際、現在の収蔵庫は、そのままに維持することを考慮する。その2は、コレクション展と特別展を同時に開催できない状態を改善するため、展示室を拡張する。具体的には、コレクション展示室は500㎡程度、特別展示室は1,000㎡以上の展示室を確保する。現在の建物を基準として見れば、1フロア分の展示室を建て増すようなイメージとなります。

横山副座長	<p>設置場所は幸町地区の現在の建物を前提としますが、部分的改築又は新築、隣の桜松館との連結など、多様な可能性があります。これに関しては、この有識者会議の中で検討を深めていただきたい事項でもあります。</p> <p>(会議資料3の中の) 資料3をご覧ください。</p> <p>呉市立美術館のコンセプトは、唯一の市立美術館として、呉の美術の継承と創造が、その根本的な役割となるわけですが、市民が集い、遊び、楽しみ、体験し、交流が生まれることで、新たな呉の文化が生まれる核であるべきだと考えています。</p> <p>幸町地区という文化ゾーン、社会教育地区において中心的な役割を果たしていきたいと思っています。</p> <p>(資料の) 下の方に書いてありますが、この内容を更に分かりやすくするために検討を続けていきたいと思っています。</p>
田中座長	ありがとうございます。福永委員から補足説明などありますでしょうか。
福永委員	横山館長の説明で十分だと思います。
田中座長	必要な要件等がだいぶ絞られてきた段階かと思います。引き続きよろしくお願いたします。

議題(3) 幸町地区全体の整備コンセプトのとりまとめ

田中座長	<p>議題の(3) 幸町地区全体の整備コンセプトのとりまとめに入ります。</p> <p>本日は、これまでの有識者会議の中で委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、整備コンセプトの中間とりまとめを行いたいと考えております。</p> <p>まず資料4、5について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料4をご覧ください。</p> <p>第2回、第3回の会議において、委員の皆様からいただいた意見等を集約した形で載せています。第2回の中で、「つながる」、「つなぐ」というイメージや、「歴史」、「市民」という言葉が多く出たことを踏まえ、第3回会議では、3つの素案を提案いたしました。第3回の意見では、もう少し踏み込んだ形での意見が多く出されておりました。</p> <p>それらの意見を受け、資料5は、前回提案した整備コンセプトをさらにブラッシュアップした形でお示ししています。</p> <p>全体の整備コンセプトとしては、「呉の文化と人々の歩みを未来へ」と、4つの動詞で、「〜つどう・つながる・感じる・育む〜」というコンセプト案になっています。</p> <p>それぞれの「つどう・つながる・感じる・育む」につきましては、「つどう」は、市民、観光客もそうですが、文化がつどう、サードプレイスとして居心地がいい場所、そういう形で人が集まる。</p>

事務局

「つながる」は、呉の文化の特徴的なことを子どもたちへ繋げていく、観光客と市民が繋がる、仲間同士が繋がる、呉の物語、これまでの歴史を未来へ繋げるということをまとめています。

「感じる」とは、前回会議での素案として提案した中のワードである「もうひとつの呉」を、ここでしかできないものを体験する場所として、街や人々の歴史・文化などの物語を感じてもらおうコンテンツをこのエリアに持ってきていたいという思いを込めています。

「育む」とは、今までの歴史・文化・伝統を学び、それを中心に呉のまちへの愛着を育み、新たな自分の発見や、成長する場や、新たなモノを生み出して発信する場という意味となっています。

この案を踏まえて、委員の皆様へ整備コンセプトのとりまとめに向けたご議論をいただければと思っておりますが、前回の会議でもご意見をいただいた「もうひとつの呉」というワードは、少し分かりにくい部分もあることも考慮した上で全体の整備コンセプト案を提示させていただいています。

田中座長

ただいま事務局から説明された資料4は、前回の有識者会議での議論、資料5は、それをベースにした事務局の案になります。

資料4、5、いずれの資料も参考にしながら、整備コンセプトについてご提案等をいただきたいと思います。

これは、呉市立美術館のコンセプトと通じるころはあるかなという気がします。

横山副座長

先ほど美術館のあり方検討会ということで、「美術館の」と言っておりますが、元々、公立美術館というのは社会教育施設ということが大前提の出発点です。そのため、幸町地区も当然のことながら入船山記念館等も含め、全て社会教育施設であることが地区全体で明確になればと思いますので、それをご議論いただいた方が良いのではないかと思います。

戸高委員

幸町地区は、言ってみれば呉市の文化地区です。ここに美術館や歴史館がある形になり、全体を高め合うようにまとめていくということが理想だと思います。入船山記念館の立ち位置というのが、なかなか絞り切れないところがありますが、やはり呉の歴史の大事なシンボルであるので、幸町地区全体の重要な部分として機能強化したいと思います。

また、事業として現実的でないかもしれませんが、計画としては常に並行的にそれぞれを補完し合うような形で検討を進めていかないと、全体の計画がもたない気がします。

呉市立美術館や青山クラブ、桜松館は比較的検討されており、入船山記念館は単独で成り立っているように見えますが、手を入れなければいけないところは多々ありますので、検討から脱落しないようにしてもらいたい。

入船山記念館を考える上でのポイントの一つに自然環境があります。周りの緑地帯というのは樹木ですから、どんどん育ってしまう。これをどの辺りで止めるのかというのが決まっていないと、ただの森林になります。

戸高委員

ところが切ろうとすると、それは大事なものだということであまり切りたくないという意見もあります。このような、流動的な生きている樹木環境のようなものは、例えばどのくらいを基準にして、恒久的に維持管理していくのかも含め、地域全体の環境の保全と・文化の維持を考えていきたいと思っています。

横山副座長

入船山記念館、長官官舎、郷土館、民俗資料館は、全てミュージアムという括りができると思います。

その時に、長官官舎は建物も意味があると考えますので、いかにそのままの状態でも保存していくのかという観点が必要だと思いますが、民俗資料館や郷土館は、ミュージアムとして見れば非常に中途半端で狭いのではないかと思います。あるいは、数年前に戸高館長から、青山クラブに文学館のようなものがあればというアイデアがあったかと思います。それらを含め、長官官舎以外のものは、青山クラブ・桜松館を含めた幸町地区の敷地の中で組み込むような発想があっても良いのではないかという気がしています。

田中座長

ありがとうございます。その他コンセプトについていかがでしょうか。

河崎委員

今、お話があった入船山記念館について、記念館を訪れる観光客の方が増えていますが、市民の方は行かれていない、気づかれていない。シンボルになって欲しいと思っていますが、先ほどの森の話があり、外からは見えない状態です。北側の神社も入れない状態です。私としては伐採するのではなく、あの山自体を整えたいと考えます。長官がいらっしゃった当時、長官官舎の縁側からは、海が見えていたと思うので、下の方から見た時に屋根が見えるなど、シンボリックな眺望になれば、もっと市民に近づくのではないかなと思います。

お城が上にあったら登りたくなりますよね。そういった感じで、まずは見えるようにしたいと考えています。

小野委員

幸町全体でというのは、まさにその通りで、私も入船山記念館・長官官舎が呉の代表的な歴史を伝える施設であると思っています。青山クラブと合わせることで、下士官兵の集会所と長官官舎という、違う意味を持っていたものを一緒に感じられることも含め、一体で考える価値があると思っています。

整備コンセプトの資料に関しては、私も「もうひとつの呉」の部分はキャッチコピーで、コンセプトは分かりやすい言葉と思っていたところ、そのように作っていただいたので良かったと思います。

コンセプトとしては、もっとすっきりしたい。言葉はもう少し考えられそうな部分はありますが、盛り込んでいる部分は重要なものは入れられているのではないかということと、「文化」というものが言葉としては最終的に残ったのはとても大事なところなのではないかと考えています。

より「未来の文化を作る場所」くらいの言い方にしては良いのではないかと思います。そうなれば、歴史を踏まえざるを得ないと思っているため、コンセプトに盛り込んでいるのは良いのではないかと思います。

小野委員

入船山秋祭りを10月1日に河崎委員と開催しましたが、この祭りは、まさに入船山をもっと市民で知ろうという企画です。美術館通りのイベントから始まり、現在、入船山記念館の中の庭園（故山苑）に美術展示をしています。このようなこともしながら、この場所は何なのかを市民で考える機会を、市民の方でも作っていきたい、未来の呉をあの場所で見せたいと思って開催しています。今回、入船山記念館、呉市立美術館、通常は公開されていない青山クラブの中庭を使用させてもらう中で、この一帯の中で一番大事な入船山記念館が、とても難しい状況にあると、私もイベントを企画しながら思っていました。

例えば、和館を全部借りても1日で5千円です。市民は安く使ったり、施設の中に入れることが重要であるとは思いますが、それはあまりに安すぎるのではないかと、その価値をどのように市民が実感するのか、価値を一緒に考えていくものではないかと思っています。

田中座長

ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。

水田委員

今のお話を聞きながら、入船山記念館が呉市にとって貴重な建物であると、市民の間で認識されているのだろうということが良く分かりました。

建築の歴史を専門とする立場から申し上げますと、この建物は、もともと長官官舎として住宅の機能を有していたので、静かな環境に置かれているのが、この建物の特徴であると思っています。一方で、人目に付く環境に置かれているのが、これから議論していかなければいけない青山クラブであり、これらの対照的な役割が、青山クラブと入船山記念館にあるのではないかと感じました。

もう一点、コンセプトについて伺いますが、前回の会議で、呉の国際性あるいは呉の持っている平和というものが大切ではないかと発言した意見は、「もう一つの呉」という言葉が包含している認識で良いのか、ご教示ください。

事務局

「もうひとつの呉」は、事務局としても色々と考え提案させていただいたところですが、平和については難しい部分もあると思っています。

広島との比較や、今回のコンセプトとは別のところで議論した方が良いのではないかという思いもあり、直接的は「平和」と「もうひとつの呉」の関連性は考えていませんでした。

もちろん呉のまちの中で、平和というのは大事なことであるということは十分認識しておりますので、人が集う場所の中でアピールができれば良いかなという思いは持っています。

水田委員

回答ありがとうございます。先進地視察でも感じたのですが、呉にしかないものを作るというのが非常に重要ではないかと思っています。

平和を取り上げることに必ずしも固執するつもりはないのですが、ここに書いてある「つながる」「つどう」という言葉は、例えば金沢でも神戸でもできることです。呉でしかできない、呉だからこそできるというのが何かあるのか。それを具体的に表す視点で、資料に記載しているキーワードの一例として、国際性や平和というところを追加してはどうかと申し上げたところです。

<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。確かにおっしゃる通りで、分かりやすくするために、呉独自の個性の部分が無くなったような感じに受け止められると思います。対外的に発信する点では、幸町地区自体が呉そのものであるため、海軍との関係や、美術館での地元作品の活かし方、様々な場所から様々な歴史的なものを集約してきたという経緯や海などの呉らしさに繋がるイメージについても、今後の検討で出していきたいと思っています。</p>
<p>田中座長</p>	<p>ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。</p>
<p>松野委員</p>	<p>入船山記念館の長官官舎を有効に利用するために前面の山が支障になるというのは、言い方が悪いかもしれませんが、過去の長官官舎と下士官宿舎の行き来を復活させていくと考えると、どこかで何メートルか伐採するということが恐らく必要になってくるのではないかと思います。そうすると、相互の関係がよりクリアになって連携して使いやすくなるだろうと思います。反対意見も出るかもしれませんが、やっておかないと繋がりが生まれにくいのではないかと皆さんの意見を伺いながら思いました。</p>
<p>横山副座長</p>	<p>今、美術館で困っているのは、台風等で強い風が吹くと、太い幹が折れたりするということです。定期的な剪定作業などについての予算は優先順位としては低く、何もしないで残しておこうというコンセプトなのかもしれませんが、メンテナンスに関する方向性が見えないと思います。</p> <p>先ほどおっしゃったように、残しながらも、ある程度の段階でメンテナンスしていくということを明確にしていく必要があるかと思っています。</p>
<p>水田委員</p>	<p>文化財の建造物の保存などでも樹木の育成は大きな問題になることが多いのですが、私がいつも対応する場では枝打ちが多いです。根こそぎではなく、それ以上に木が成長しないように定期的に枝を落としていくという方向で、整備をご検討いただくのが良いのではないかと思います。</p>
<p>下倉委員</p>	<p>呉高専の学生の卒業研究で、昔の入船山記念館からの景色をテーマにしたものがあり、それを参考にしながら復活させる方向もあると思いました。</p>
<p>小野委員</p>	<p>入船山に関わる、いろんな関係者の方と話をしてきた中で、木を切ろうとすると反対意見が出るからとみなさん言いますが、この入船山に関して反対意見を言っている方に私は出会ったことがありません。</p> <p>つまり、剪定など手入れが必要と皆が思っているけれど、誰がどう対応するか単純に決まっていないと理解しています。先ほどの、安全面で既に木が危ないということであれば、かなり急務なのではないかと思っています。樹木に関しては、この再整備計画の中で方針を決めてというより、安全面など諸々を考えて早くやった方が良いのではないかと思っています。</p> <p>先ほど水田先生がおっしゃったように、このエリアの景観や何かを壊すやり方は良くないというのは、土木関係の皆さんも思っているはずですよ。</p>

小野委員	<p>長官官舎に関しては、最初の方の委員会で下士官兵集会所と長官官舎がある価値・意味というものを捉えると、長官官舎が奥まった場所にあること自体を意味のある動線にしていけたら良いのではないかと思います。そこがにぎわう必要はなく、価値のある場所として、もう少し認識されていくということをコンセプトとして示すことができれば良いと思います。</p>
横山副座長	<p>小野さんも少し言われていましたが、（入船山記念館の）庭園（故山苑）は、私が来る前、絶対にあの中に入っただけとはいけないというような縛りがあったようなのですが、今回の入船山秋祭りでも彫刻を設置しているように、かなり活用が変わってきたように思います。その辺り、福永委員がご存じのことがあるかと思いますが、いかがでしょうか。</p>
福永委員	<p>故山苑は、足立美術館を作庭した人に依頼した経緯があります。私は当時、美術館スタッフの立場として、フラットな芝生であれば彫刻を置いたりできるのにと感じていましたが、故山苑が出来たおかげで、呉市立美術館の日本的なイメージが固まったという感じがしました。</p> <p>今後、幸町地区で再整備をする際に、あの庭をどうするのかはポイントになる気がしています。</p> <p>入船山記念館は五月雨式に色々なものができていった経緯があります。美術館が整備された後に奥の資料館ができたり、海軍工廠の屋根の上にあった時計塔を強引に移設したりと、計画性が乏しかったと感じています。そういう意味では、資料館などの展示環境が悪いため、機能を整理して再整備し、皆さんに見ていただけるようにしていければ良いのではないかと思います。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>戸高委員に言っていたように、入船山記念館周辺のお話は、この会議で少し手薄だったので、議論・意見をいただけたのが良かったと思います。幸町地区全体を見ながら、どうしていくのか、引き続き議論できればと思います。</p> <p>コンセプトは内容的には良いのではないかと思います。今後も内容について形にしていくことはあるかと思いますが、基本的に中身についてはこうなのかなと感じます。ただし一方で、コンセプトとは別の部分でのキャッチフレーズとして独自性、呉ならではというところを打ち出していく必要があるかと思いました。</p> <p>とりまとめまでに予定されている全8回のうちの今回は4回目の会議ですが、仮に文言を変えるにしても、整備コンセプトとしては一旦とりまとめとしたいですが、いかがでしょうか。</p>
横山副座長	<p>先ほどあり方検討会の報告をさせていただきましたが、ここで挙がっているコンセプト案、あるいは、皆さんの個別の意見の見方を統一して考えると、社会教育的というか、文化に係ることであるのは間違いのないわけなので、これまでどなたも明言されませんが、あの地区を文化ゾーンとはっきりと再確認することが大事なのではないかと思いますがいかがでしょうか。</p>

呉市長

すいません。私の方から意見を言ってよろしいでしょうか。

水田委員の発言は、とても大事なことで、この地は、初め海軍用地でした。大和ミュージアムに象徴されていますが、長官官舎は鎮守府長官の官舎、青山クラブは下士官クラブで、その上側に海軍病院があり、日本一、世界の海軍工廠だったので、呉は日本を守る地域という意味で、平和と言われたのだと思います。今現在も、海上自衛隊があり日本を守っている。日本だけではなく日米安保条約やインドやオーストラリアと一緒に世界平和を守っています。

そのため、横山委員には悪いのですが、美術館が後にできたので、本当に文化ゾーンで良いのか。もちろん文化なのですが、水田委員の言った文化の中の呉は何かというと、やはり海軍です。そのことをどこにも書いていないコンセプトで本当に良いかということは、十分に議論していただきたいと思います。

水田委員

市長の意を汲んで発言したつもりではなかったのですが、ここまで事務局もまとめていただいたことなので、それを今からもう一度引き返してまた作り直すというのは、時間もかかり大変だと思います。私は「呉の文化と人々の歩みを未来へ」というのはそのまま良いのかと思います。

下段の説明文に呉の独自コンセプトが入ればという希望を持っていました。

下倉委員

(下倉委員作成の) 当日配布資料に記載されていますが、私なりに考えたコンセプトは「海の平和とものづくり」というものでした。もちろん事務局が考えてくださったことは色んなことを網羅していて良いのですが、水田委員がおっしゃったように、何かを進めるときにフックになるキャッチーなものは欲しいと思っており、水田委員や新原市長がおっしゃったように、やはり呉は「海」、「海軍」という印象が私もすごくあります。例えば北海道の東川町などは「写真」、「家具・クラフト」、「大雪山」とコンセプトはその3つ。神戸市の視察先であったK I I T Oでは「クリエイティブ」というように、すごく分かりやすい。しかもストライクゾーンが割と絞られています。全部網羅すると、色々なことを決めるときに難しいのではないかと思います。

小野委員

わたしは、はっきり「文化」だと思います。

そもそも「文化」が、その前の歴史も内包していると考えているからで、それをはっきりと明言してどこにどのような言葉を置くのかは難しいところだとは思いますが。色々なまちに行ったときに、「旧〇〇」と呼ばれたまちが、今誰のものなのかというのがすごく気になっており、呉は旧海軍のまちということだけが既にある状態と思っています。ですから、そこを敢えて言ってしまうと、「またそれか」と思う人がいるのも事実だと考えています。

入船山の歴史は、海軍が入る前から価値があると考えています。市長も最初の委員会のおっしゃっていたかと思いますが、そこはすごく大事だと思っていて、(入船山は)このまちの歴史を見てきた場所だということ。ここが踏まえてきた歴史というものがしっかりとあって、文言・コンセプトとしては、文化か観光か海軍かで全然違うものになると思っていて、ひとつは、文化という言葉がすごく大事だと考えています。

小野委員

(コンセプトに) 何を内包するのか、どこを強めにするのかという議論の時に、自分の意見としては、このまちが持ってきた海軍の歴史と、海軍が入ってきたことによるまちと市民の歴史をどのように海軍が作ってきたかということ、本当に内包した場所だと思っています。青山クラブは、まさに接点だった場所で、「この世界の片隅に」という作品は、それをしっかりと描いてくれたと思っています。作品に出てきたことも、今後、絶対に価値となると思っていますので、私はすべて残すという形で使っていった方がいいと思っています。それ自体が海軍というものを踏まえているので、文言としてどこまで強く出すのかというのはすごく難しいと思っています。それも含めて未来を考えていったときには、ここが文化拠点として整備されていく、それを考えるためにここが踏まえてきた歴史を知ることができる場所にするというのが重要なのではないかと今のご意見を聞いても思っています。

横山副座長

資料5でも出てきた、呉の文化という言葉ですが、文化庁などで長官表彰を出すとき、どういう人が推薦されるかという「食文化」です。ですので、歴史や市長がおっしゃったことなども全部含めて「文化」という考えの方が適切なのではないかという気がしています。

「文化」という言葉が残ったということは、非常にこの会議の意味があるという気がしており、同時に先ほど水田さんがおっしゃったように、「平和」ということは文言として挙がってきても良いのかもしれないという気がします。

水田委員

「文化」という言葉が呉の独自の歴史を含んでいるということに、まったく異存はありません。それを説明するために項目の中で「平和」にこだわるものではありませんが、もう少し呉の独自性を訴えるキーワードを入れていただくと良いのかなと思います。

写真を見ていて思ったのですが、イギリスのグリニッジには、「マリタイム・ミュージアム」や「クイーンズ・ハウス」という貴族の邸宅があり、広場の先にはクリストファー・レンが設計した、今は大学になっている建物があるなど、海、海軍にまつわる歴史的建物が点在して残っており、上手く連携してあのエリア一帯に観光客がたくさん訪れる魅力的なエリアになっています。幸町地区もそのような感じになれば良いのかと思いました。

戸高委員

資料5のヘッドライン部分に「呉の文化と人々の歩みを～」と書いてありますが、右下の「育む」には「呉の歴史、文化…」と書いてあり、「呉の文化と人々」だけでは歴史が脱落するので、「育む」の説明と一緒にヘッドラインも「呉の歴史・文化」の方が、全体が収まると感じます。

歴史と文化は微妙に違っており、文化は横軸でそれが縦に流れていって歴史になるので、両方無いとひとつだけになってしまう。文化そのものにも歴史がある、歴史の中に文化があるということなので、ここに「歴史」を加えていただくと要件をみんな入れていけると思います。

これは、このようなことを伝えたいとなっているので、具体的にどうするのか、どのように作ろうか、作業しようかというひとつ前の作業段階の考え方と

戸高委員

いうものがあります。大学で彫刻をやっていたときに「他所にすでにあるものはいらない」と、オリジナリティとユニークさだけ、それ以外のものはすべて真似だというくらいの教えを受けていました。前の博物館（昭和館）を作るときも大和ミュージアムを作るときも、既にあるこういうものを作りたいというコンセプトを具体的にまとめるときに思ったのは、常に、どこにもないものを作るという気持ちを忘れると、どこかにあるものがもうひとつできて無駄だということになる。こういうものを作りたいというのがまとまった時、具体化する時に忘れてはいけないのは、どこにもないから作る、どこにもないものを作る、この気持ちをもってまとめていけば、必ず他所の人が見て、あそこにはないものがあると思えばこそ、わざわざ行こうという気持ちになる。そういう全体の構造を考えていってほしいと思います。

下倉委員

戸高委員や皆さんのお話を聞いていて、私は「呉の文化と海の歴史を未来へ」とするとしっくりくるかと思います。

「人々の歩み」というのが少しぼんやりしているので、「海の歴史」というと言うとこれまでの戦争の歴史を含まれ、今の自衛隊のある歴史も含まれ、戦争に巻き込まれた人々の歴史も含まれるというのもあるので、少しキャッチーに近づくかと思いました。

田中座長

今のお話ですと、戸高委員からの「呉の歴史・文化と人々の歩みを未来へ」という話と下倉委員からの「呉の文化と海の歴史を未来へ」ということになるかと思いますが何か意見のある方はいらっしゃいますか。

水田委員

個人的には一番下の項目に「平和」という言葉が入っていても良いかなと思います。その程度で良いのではないかという気はします。一番上のタイトルまで変えるということは思っていないです。

小野委員

文言は今後、もっと研ぎ澄まされていくと考えていますが、「海」というのは大事だと思ったのと、「人々の歩み」はぼんやりしていると思っていたところなので要らないかと感じます。最終的にどういう文言になるかは、まだまだ研ぎ澄まされていけるのかと思います。

前回少し出た話として、平和や歴史という言葉の使い方に気を付けないと、あらゆる人にとっていろんな意味を持つものなので、それをどのようにここで語るのかという話になっていくと思います。そこについては、しっかり考えましょうというのが前回の委員会に出て、良い委員会であると思ったのと同時に、言葉一つにしっかりとこだわるというのは、すごく重要だと思います。

呉で「平和」と言えたら良いとは思いますが、それこそ、ものすごく気を付けなくてはならない文言なのかなと思います。とても感じ方や理解の違うワードだと思うので、それを考えるという意味でも、どこかに含まれていると良いと思っています。

松野委員	<p>いろいろな話を聞いているとひとつにまとめるのはすごく難しそうだと思います。「呉を未来へ」くらいでいいのかなと思います。</p> <p>「呉」の文字の中にいろんなものが詰まっていると解釈してもらえれば、それで良いのではないかと思います。</p>
横山副座長	<p>「呉の歴史と文化を未来へ」とすれば、大体のことは含まれた形になるのではないかと思います。いかがでしょうか。</p> <p>もちろんサブタイトルをどう付けるのか、どこを強調するのかなどはありますし、歴史というイメージは戸高委員が言ったような、時間軸ということもありますが、「文化」というのは、先ほど「食文化」と言いましたが、同じ一つのことがあっても地域によって反応の仕方が違ったりします。変わっていくということも含めていかがでしょうか。</p> <p>今、油絵を描いている人というのは、表現の中でもかなりローテクの仕事をしているわけで、それも時代によって変わってくるということもあります。文化というのは食文化もありますし、生活のスタイルという意味も含めて広く捉えたらと考えています。</p>
下倉委員	<p>先ほど戸高委員がおっしゃった文化は横軸で、それが縦に積み重なると歴史になっていくというのが、このエリアにすごくピッタリだと思いました。何かの接着点というか、結節点になってきた場所で、文化という流れるものと積み重なっていく歴史というものは、図にしたらより面白いのではないかと今思いました。それ自体が幸町の軸となり、すごく理解しやすかったと思いました。何かに活かしたいです。</p>
河崎委員	<p>海軍のことが置き去りにになっているかと思うのですが、いろんなところを視察させてもらい建物を見て、どこにもあったかと思いますが、その歴史というのをきちんとどこの建物も描かれていました。</p> <p>例えば、桜松館はこうだった、入船山はこうだった、青山クラブはこうだったというのは、その建物には必ず入れてくると思います。</p> <p>もうひとつの作業として、あそこを掘り下げていけないといけないところが、先日の入船山秋祭りでお茶会をした際、鎮守府長官がいらっしゃったときに、お茶会をやったなどの逸話が出てくれば面白いと思ったのですが、その辺りが出てこなかった。そういったところもちょっと掘り下げていきたいと思っています。</p>
水田委員	<p>先ほど河崎さんがおっしゃったように、確かに最近、近代史の中でも近代の軍事施設、あるいは陸軍や海軍に対する評価が少しずつ変わってきています。</p> <p>若い研究者などの中では、都市や社会と軍事活動（軍隊）がどのように関わっていたかということの研究が進んでいます。</p> <p>例えば、近代の広島などは軍隊を誘致していたわけです。軍隊が来れば水道も整備されるし経済も潤うということも事実としてありました。その是非は別として、そのことに目を背けるのは違うのではないかと思います。確かに海軍</p>

水田委員

が来たということは、負の側面も多大にあったかと思いますが、青山クラブの中に動物園のようなものが整備されていて、子どもたちが遊んでいたことや、デパートとしての機能を有していたというのは、海軍があることを市民は歓迎して楽しんでいた側面もあるわけです。そういう歴史にも、目を背けず伝えていくというのが大切なのではないかと思います。

小野委員

ひとつ大切と思っているのが、呉に住んでいて、そもそも海軍に対してあまり批判的な空気ではないというのがあります。

ただ、捉え方が一義的だと思っています。海軍というものについて、河崎委員がおっしゃったように市民自体がもっと深掘りをしなくてはいけないと感じています。

建物に関してですが、コンセプトなどで海軍とハッキリと言ってしまうのはいかかかなと思います。視察等でいろんな施設を見てきましたが、海軍施設だから海軍を踏まえた施設として使っているわけではなかったと思います。宿になっていたり商業施設や美術館として使われているなど、使い方を決めたり考えていくプロセスの中でどんどん深掘りしていき、エッセンスとしてどこかに残しているというのが大切だと思います。

コンセプトとして言うことにより、それに引っ張られた建物になると、それこそ最初に危惧していたチープな観光施設のようになりかねないと思います。

使い方そのものは未来に向けたものであって、それがしっかりと歴史を踏まえたものになっているかということが、今後考えなくてはいけない部分であると改めて思っています。

田中座長

先ほど横山副座長が言われた呉の歴史と文化を未来へという話、確かに人の歩みというところがぼんやりしているので、「人々の歩み」も歴史というところに含まれるかなと考えると、「呉の歴史と文化を未来へ」ということで一旦とりまとめても良いかと思いましたがいかがでしょうか。

下の部分は、今ご議論をいただいたように、いろいろと書いていかないといけない部分や打ち出す部分があると思いましたが、海軍の話も「歴史」という部分に含めて「呉の歴史と文化を未来へ～つどう・つながる・感じる・育む～」と、まずは仮置きとして、これで進めていければと思います。

では、上の部分は、一旦これでとりまとめとさせていただければと思います。

先ほど小野委員も言われましたが、ブラッシュアップしていくことは必要かと思しますので、引き続きここに立ち戻って議論ができればと思います。

議題(4) 幸町地区に求める機能、新たに追加する機能のとりまとめ

田中座長

続きまして、整備コンセプト案を踏まえ議題(4)に入りたいと思います。この議題においても、先ほどの議題(3)と同じく、中間とりまとめという形でできたらと思います。

この議題に関する資料として、資料6, 7, 8をお配りしております。まずは、資料について事務局の方より説明をお願いします。

事務局

資料6をご覧ください。

この資料は、第2回・第3回の有識者会議において委員の皆さまからいただいた、幸町地区に求める機能や新たに追加する機能に関する意見・提案を、事務局において要約・整理したものです。第2回会議では、幸町地区に求めるものとして、高校生や10代の方のための空間、歴史を伝える出発点、青山クラブに集会所があった当時の宿泊や飲食ができる機能などの意見がありました。

第3回会議でも、来訪者を惹きつけられる場所、若い人や文化や芸術の入門者、興味を持つ一歩手前の人たちが気軽に来訪できる施設、インフォメーション、ハブ、高校生などの学生たちが集まり何かを生み出すことができる場所という意見をいただいています。

こうした意見を踏まえた上で現状を改めて確認いただくため、資料7-1を作成しています。先ほど出てきた森の話や建物の位置関係、点線部分は道があったところなどを示しています。施設の説明も書いています。

今年5月に実施した現地視察の際、委員の皆さんに見ていただいていると思いますが、⑦は入船山の旧呉鎮守府長官司令官、①は塔時計、②は旧高鳥砲台の火薬庫、③は東郷邸の離れ、④は郷土館、⑤は2号館、⑥は歴史民俗資料館(近世文書館)となっており、これらのエリアがまとまって入船山記念館です。

さらに、この場所にいろんな物を移しており、右の一番上「東郷元帥ゆかりのイチョウ」ということで経緯は記載していますが、これは、イギリスで軍艦「比叡」を建造してもらった際に、日本政府からイギリス政府にイチョウを贈られ、その船を日本まで回航したのが東郷元帥であったことから、東郷元帥にゆかりのあるイチョウとして、イギリスにあったものを挿し木にして今回ここに植えられているものです。

また、市民広場の方になりますが「乙女椿」という伝説があり、長者の娘と漁師の息子が恋に落ちたが、許されず海に身を投げた娘のなきがらの流れ着いた呉浦に、一輪の椿が花を咲かせ夜になると光を放ち、夜の船の目印になったという伝説があり、大きな木がありましたが枯れて、現在は2代目が植樹されているという歴史的なものもここに集約されています。

図の中央が⑧の美術館、道路を挟んで向かい側に⑨の別館があります。このあたりが幸町地区の文化ゾーンを形成しています。

さらに、今は使われておりませんが、⑩が桜松館、⑪が青山クラブと未利用の施設になっています。ここをどのようにしていくかも含め、ここに求められる機能というのを今から議論していただくようになりますが、これが全体の位置図となっています。

事務局

続いて資料7-2をご覧ください。こちらは具体的に地図に含まれていない情報として、建築年代や現状と課題などをまとめています。

先ほどお話にあったような④⑤⑥は入船山記念館の周りにある施設ですが、いずれも整備後かなりの時間が経過しており、施設の老朽化や資料の収納スペースがないなどの課題があります。

美術館の⑧⑨は、横山委員からもお話いただいたような課題があります。

一番下の⑩⑪は、桜松館・青山クラブのことですが、建物については耐震基準を満たしていない、施設の老朽化、建物の活用にあたっては改修方法について検討が必要など、今現在の課題を記載しています。

次に資料8をご覧ください。このエリアを全体として、先ほどコンセプトの方も大枠は決めていただきましたので、コンセプトに基づき幸町地区に求められる機能は、どんなものが必要なのかというところを、皆さんにいただいた意見を踏まえて3つのカテゴリーに分類しています。

まず左上は「呉の歴史を伝え、感じる施設」

- ・歴史を伝える出発点
- ・歴史を継承する場所
- ・当地区が歩んできた物語を活かした施設
- ・「この世界の片隅に」に関連した施設

その右側の「文化・芸術に親しみ、発信する施設」

- ・美術館
- ・桜松館などを活用したようなスタジオ・ホール機能
- ・呉の文化に親しみ、自らが発信できる場所
- ・講座や自主サークルの活動などができる施設
- ・文化・芸術に興味をもつきっかけとなる場所

社会教育施設的な意味合いも込めて、文化・芸術的な拠点としての位置づけというのが2つ目です。

最後に、「まちの情報発信・賑わいの拠点」

- ・まちのコンシェルジュ機能
- ・インフォメーション
- ・まち歩きの拠点
- ・サイクリストのための結節点
- ・ものづくりのまちを発信する拠点
- ・高校生をはじめとした若い世代の人たちのための場所

これは委員の方から、未来へつながるという意味で、若者世代へのいろんな活動の場所とするというのが提案されています。

最後にそのような機能を包括する意味で

- ・飲食・物販・宿泊機能

これは、もともと青山クラブが持っていた機能でもあります。

このような3つの柱で、現状の施設や機能についても振り返りながら、再整備に当たっては、新たな機能も含め、幸町地区の中に求めていくという案です。

地区全体の中で完結できるものであれば良いのですが、大和ミュージアムや呉駅、繁華街などの他のエリアとの回遊性も含めて提案している内容です。

田中座長

ありがとうございます。

ただいま事務局からの資料6, 7, 8の説明で、資料6はこれまでの機能に関する会議での議論、資料7は現況、資料8はこれまでの会議を踏まえての必要機能を事務局の方でまとめていただいたというものになります。

この素案や地区の現況、整備コンセプトなどを踏まえて、幸町地区に求める機能、そして新たに追加する機能に関するご意見・ご提案をいただけたらと考えています。それをベースに、こちらについても中間とりまとめができたらと考えています。

ここで、委員の皆様からご意見をいただく前に、下倉委員から資料のご提出をいただいておりますので、こちらの説明をお願いします。

下倉委員

建築計画を専門としているため、空間を意識していかないと、機能だけを考えるというのが私の中では難しく、皆さんが描いている呉のまちに関して共有できるような絵のようなものがあると良いと思い、資料を作成しました。

最初のコンセプトは先ほど議論したので省略しますが、食のコンセプトというのも作ったのですが、横山副座長も「食」は大事と言っていたので。呉市で行った観光に関するアンケートを見ても、「牡蠣とレモンと海自カレー」に辿り着いたという話です。

次に呉市街地のネットワークというところですが。皆さんも同じように感じるかと思いますが、大きくは3地区に分かれるのではないのでしょうか。

大和ミュージアムがある観光、れんがどおりがある生活、食べたり買ったりするエリア、幸町地区が文化・交流のエリアだと思っています。この位置関係をみると、生活と交流のエリアがとても近いので、観光客の皆さんや市民の皆さんも、文化・交流の幸町地区まで来てもらえば、リアルな呉を少し知ってみたいという人が、れんがどおりまで足を運ぶのではないかと考えています。

少しネックになるのが、観光と交流・生活のエリアが少し離れており、真ん中に海上自衛隊の教育隊があるので、ルートの的に大回りをしなくていけない状況です（資料真ん中のピンクで示した四角い箇所）。

簡略図で太字にしてあるところが、大和ミュージアムから呉駅の方へ戻り、ビューポートくれの前を通り幸町地区の方へ行くルートです。

細いルートの方は、海上自衛隊の海を見ながら行くということです。両方歩いてみましたが、なかなか海上自衛隊の方はしんどいと感じました。以前の壁よりは、教育隊の敷地内が良く見えるようにしてくださったのですが、同じ壁がずっと続くため、一般の方は太字の方を歩いてもらったほうが呉の生活も感じつつ歩けるのではないかと考えています。マニアックな方は自衛隊の方を通ってもらった方が面白いのかなと思っています。

エリアに間があり、そこを結びつけなくてはいけないため、幸町地区も都市計画として全体を考えていかないといけないという資料です。

次のページに移ります。

神戸市のK I I T Oに行った際、クリエイティブな“こども”を育てる点や、退職した人もいろんな能力を持っている点など、どんな人がいるのかを考えていた印象があったため、幸町地区において考えられる属性を挙げています。

下倉委員

例えば、相談や交流できる場所が無いと感じ、子育てに困っている方や、退職後の元気で経験豊富な高齢者、子育てが一段落して何かにチャレンジしたい女性。これは実際に、この間もキッチンカーでホットドックを売っている女性に会いました。子育てや夫の転勤などで、どうしても仕事を離れなくてはならなかったけど、ひと段落したので再び何かをやりたいということを言われています。このように、もう一度チャレンジしたい、何かにチャレンジしたいという考えを持つ方がいます。

また、若者や障がい者の方々にとっての行き場も、まちで見かけることが少ないと感じます。そういう方々も気軽に來ることが出来る場所であったり、また、いろいろと体験したいと考えている、子どもなども考えられます。

そうして考えた時、幸町地区の色々な建物が建っている位置関係としてのキャラクターを考えてみると、先ほど横山副座長が呉市美術館はそのまの場所でおっしゃっていて、入船山記念館とも文化・美術のゾーンなのでそのままでも良いかと思いますが、（市民広場に）新陸上競技場ができるという計画が衝撃的で、それに引っ張られた案になっています。

今の呉市美術館は転用し、新陸上競技場に関連させたような施設にできないかと思っています。

そこにスポーツをする若者、その保護者、その兄弟や小さい子どもも来ると考えると、一番近い場所である今の呉市美術館が、そのような場所になれば良いかなと思っています。

私も属性のところに高齢者と書き忘れたくらい、高齢者の方がこぼれ落ちてしまうのですが、あとは後期高齢者の方々の施設が考えられると思います。子どもと高齢者は相性が良いので、そういう場所を現在の呉市立美術館に作っても良いのではないかと考えました。

入船山記念館の方は現状と書いてしまいましたが、戸高委員がおっしゃったように、いろいろと問題がある。いろんな小さな施設、資料館などもあり、そういう場所は青山クラブに移転をしても良いと思っています。桜松館が幸町地区の真ん中辺りに位置するので、ここが重要だと思っています、この場所から美術館に行ったり、青山クラブに行ったり、市民広場側に行ったりというような場所になれば良いと思っています。

そうすると、イベント広場のようなものがあると良いと思っています、できればストック活用したいと考えていますが、桜松館にガラスの屋根などを掛け、広い半屋外のイベント広場のようなになっていくと、そこからいろんな人たちが（それぞれの）場所に移動していくということができるとしています。

青山クラブは、今まで話したような話を入れ込んでいるだけです。いろんな施設があると良いですねという考えを示しています。

最後、もう一枚めくっていただくと、（呉高専の）設計製図の授業の中で、青山クラブの再生というのを一度課題に出したことがあり、その中の班の一つにお願いをして編集してもらった図です。

がちりそのまま残すというよりは、少し人が入りやすいような空間があると、新しい機能にマッチするのではないかと思っています。一方で、今までの外観は損なわない程度というのはどういう形なのかと考えると、1階部分は割

下倉委員	<p>と改変しても良いのかなと考えており、そうすると人が寄り付きやすくなるというイメージを皆さんに共有出来たら良いと思ったため、学生にCGを描いてもらいました。</p>
呉市長	<p>実は、呉駅前の広場は清水建設が請け負って設計しており、2階建てのデッキを作ることになっています。そのデッキには最初の再開発の議論から、小型の自動運転車を導入していこうという話になっています。</p> <p>その当時に何を考えていたかという、先ほどの戸高委員のご発案で、青山クラブに海軍に関する文芸のようなものを置いていこうというようなことだと両方関係があるので、自動運転車を呉駅から大和ミュージアム、教育隊の間を通り青山クラブのあたりのゾーンに運行する。さらに、れんがどおりに行ったりするように巡回させる。場合によってはグリーンスローモビリティといって、ゴルフ場の電動カートのような乗り物がありますが、そういったもので宮原の山に登るなどの実証実験をしています。呉駅周辺の再開発と市内各地との回遊性を並行的に呉駅周辺事業推進室で検討しています。</p> <p>この話と下倉先生の絵が、非常に親和性が高いので、できれば呉駅周辺事業推進室から、その辺りの話も一度ここでしてもらい、一体となって呉のまちをこれからどうするのかということもご提言いただいても良いのではないかなという感じがしました。</p> <p>ここ単体ではなく、まち全体の中の幸町地区の位置づけということも、ご議論いただいて良いのではないかと思います。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私も、この資料1ページ目の右の地図の視点は、非常に大切だと思っています。今、市長からお話をいただいたように、呉の駅前の話もありますし、堺川沿いの公園の話もあります。リノベーションまちづくりなどもやられているかと思っています。これらが一体となって呉のこのエリアのまちの魅力を高めていく、そこに相乗効果もあろうと思いますので、市長からも言っていただきましたが、全体像を見ながらここをどうするのかという議論ができればと思いますので、そのあたりも引き続きよろしくお願いします。</p>
呉市長	<p>もうひとつだけ。先程から自衛隊の話が抜けているのですが、今も歴史は毎日、呉に自衛隊があるということで育まれているということをお忘れなきようにお願いします。</p>
横山副座長	<p>下倉委員のお話ですが、美術館あり方検討会で検討しているのは幸町地区に美術館があれば良いという話であり、今の場所に固執するものでは毛頭ありません。ただ、今の建物を前提とすれば、もう1階分広くないと正直に言ってコレクション展と企画展は同時開催できないという点があります。</p> <p>現在の建物は非常に残念なことに美術館機能を果たしていない。以前も申しましたが、当時は市民のギャラリーというくらいの意識しかないという非常にのんびりした考えだったと思いますので、全然こだわっておりません。</p>

戸高委員

ここまで言って良いのかどうかかわからないですが、下倉先生の図で大和ミュージアムから幸町地区に行く道で、駅の周りの道が広くて、自衛隊の教育隊の下が少しマイチですねという話でしたが、私は最初に来た時に歩道橋の方から教育隊の山の方を見て、この道の幅があと5mあればすごい並木道になって楽しみながら行けると思いました。そのようなことが可能であったらという話ですが、3m、4mでも教育隊の壁が下がれば、あそこは本当にいい散歩コースになって、行きついた辺りに幸町地区に行けるとい、すばらしい通路になると思います。私は、これを下げることによって困る建物は無いのではないかと歩きながら見えています。まち全体の開発の中で、そういったことが可能であれば素晴らしいルートになるなと考えたことがあります。

これは自衛隊の土地を譲ってくれと言うことではなく、自衛隊と相談し、教育隊の土地の一部を呉市の観光集客力強化のために道路として利用させて頂くという形が良いと思うものです。

小野委員

観光から交流が遠いというところで、この通りが残念とおっしゃっていましたが、実はこの絵で言うと自衛隊のエリアを観光と言っていいのかどうかは分かりませんが、今時点で呉がそのエリアを観光エリアとして見ることができているということは、ひとまず日本は平和だなと感じられるということだと思えます。

「観光」というこの枠が自衛隊のところまで入ると思っています。あの塀が変わりましたよね。何がびっくりしたかと言うと、塀が無くなったことによって桜が満開で見られることです。本当にびっくりしました。

訓練しているところが丸見えなのが、国防的に良いのかどうかは分かりませんが、こんなに丸見えのまちは無いだろうと思っています。

Uターンとして戻ってきているのもあり、生活者として、呉って不思議なまちだなと感じています。目の前に見えている、そういう意味での平和だと思っているのですが、それをどう感じるか、それも含めて呉で得られるというのはすごいことだと思っています。

ここは、実は春になったらこっちを絶対通ってくれと言いたくなるくらい桜並木が美しいというところが見えているので、ここのルートやこっちのルートもあるよと市民が見せられるくらいになったら良いなと、この地図を見ながら改めて思いました。

田中座長

機能ですが、先ほどお話しいただいたように、今までの議論をベースに必要と考えられる機能がここに書かれています。

下倉先生の方から出していただいたものも踏まえて、ここに足りないものや追加した方が良いのではないかとというようなところ、逆にこれはいらぬのではないかとということも含めてご意見がありましたらお願いできればと思います。

水田委員

前回から申し上げているように、青山クラブは戦前の下士官兵集会所の姿を伝える、桜松館も戦前の海軍のホールを伝える貴重な建築物だと思います。そういった歴史的建築物としての価値を伝える施設という文言を資料8の左上の中に入れていただくようお願いします。

河崎委員

「この世界の片隅に」関連した施設ということですが、その当時の呉市民の生活というものを、作ってほしいというのがあります。

青山クラブ北側の清水川沿いと高架下は昭和の良い雰囲気はまだ残っているため、できれば青山クラブは行政で作し、あの辺りは民間で食べる場所などのゾーンを作っていきたい。昭和の生活が見られる場所が青山クラブにあり、そこからまちに食べに出る。呉のまちは昭和がまだ残っているまちで、歩いて5分～10分で食べに行けるので、そういった感じにしたいと思っています。

もうひとつ、大和ミュージアムからの道ですが、なかなか難しいだろうと思っています。どうすれば行ってくれるかなと思っています。大和ミュージアムから青山クラブまで、戦艦大和約2.6隻分です。そうやって考えていくと面白いのではないかと思ったりしています。例えば制服のフジの前の道ですが、あその前は、戦艦大和とほぼ同じ長さです。

制服のフジの前にガス灯通りがありますが、ガス灯のところにここが「艦橋」です、ここが「主砲」です、みたいなものがあれば楽しいということも考えています。

さらに、教育隊の方を通る際に、陸上競技場ができるかもということですが、下倉先生も書かれているように、ちょうど教育隊の突き当りのところにアーバンスポーツができる場所があれば良いなど。アーバンスポーツをやっている子ども、見られている環境ではすごくモチベーションが上がるので、可能かどうかは別ですが、市民広場がスポーツの場、入船山・幸町地区が文化の場で文化とスポーツの場になればいいと思います。人が集まれる場所。市民広場にも芝生があって、下倉先生の絵も京都の立誠小学校もそうですが、まちと芝生部分がフラットですごく入りやすいように作られている。金沢の21世紀美術館を視察した際にすごく天気良くて、周りの公園でみんな遊んでいたような雰囲気を作りたい。

横山副座長

先ほどアーバンスポーツという話がありましたが、今美術館通りに若い人が来て、そこでスケートボードをやっています。あれはちょっと困っており、単に迷惑ということでは無く、車の通りが多い場所でもあるという点を懸念しています。あのくらいのことをやる場所も呉にはないのという感じもします。その辺は総合的に考えていくことではないかと思っています。

冒頭で（先進地視察の）施設に対する意見もありましたが、各場所で結果的に感じることは、例えば神戸市のKITOを例にすると、図書館がありデザインセンターがあり、その他もあります。様々な管轄を超えて一つにまとまっています。これまでも話をしたことがありますが、幸町地区を考える際に、それぞれの管轄や部署が違うという発想はやめて、地域全体をどうするのか、

横山副座長	<p>少なくともここではそういう議論をしています。そういう体制を作っていくことが必要ではないかと思えます。</p> <p>何度も申し上げますが、文化と観光が敵対するものでは絶対に無いし、文化の中でも「高級文化」もあれば「生活文化」もあるということなので、そういう知恵を結集できる場所でありたい。そうしないと結局うまくいかないのではないかという気がしています。</p>
下倉委員	<p>素案の資料の機能のところに付け加えていただきたいと思ったのは、どんな人のことを考えるのかというのは入れておかないと、障がい者とかはこぼれてしまいがちになる。</p> <p>例えば、最近では自閉症の子どものために、子どもの施設にスヌーズレンやカームダウンルームを作っているなどが当たり前になってきているため、そういうことを入れるためにも、どんな人が使うのかというリストのようなものがあると良いと思いました。</p>
松野委員	<p>最終的なところになるかと思いますが、この施設をどうやって維持するのかといったところまでを考える、どこでお金を稼ぐのかなと思いつつながら、この資料を見ていました。</p> <p>割り切ってお金は稼がずに、視察に行った金沢市民芸術村のような形にして、好きに使ってくださいという話であれば良いですが、どうしてもお金の話は出てくるので、どこかでお金を稼ぐ方法も考えておかななくてはいけないだろうと思っております。</p>
田中座長	<p>福永委員はいかがでしょうか。</p>
福永委員	<p>前回の委員会の時にも申し上げましたが、どんな人をターゲットにしてどんな機能を持たせていくか。全国各地の文化施設でいろんな夢は描きますが、最終的に活用されないというケースをたくさん見えています。</p> <p>整備をする一方で、それを維持管理したり運用したりする体制づくり、それを実施できる根拠となるお金、予算の問題も含めて、あまり途方もないドリームプランを作っても、それが市民の皆様にも愛されて活かせるのかという現実的な着地点を考えることも必要になってくるのかなと思いました。</p>
田中座長	<p>今、皆様のご意見を伺っていて、機能としては特に異論はないのかなと思いました。ただ、これを実現していくにあたっては、運営の話、お金をどこで稼ぐのかという話、どういった方々をターゲットにするのか、管轄を超えて進めていかないといけないなど、色々と配慮事項や懸念事項があるということかと思えます。</p> <p>もうひとつ、前半の議論で印象的だったのは、並木など周りの話をいただいたかと思えます。やはりこのエリアは周りとの関係で成立することになるかと思うので、冒頭でもお話いただきましたが、下倉先生に作っていただいたように全体的な視点で考えていくことが必要なのかと感じました。</p>

<p>田中座長</p>	<p>「呉の歴史を伝え、感じる施設」「文化・芸術に親しみ、発信する施設」「まちの情報発信・賑わいの拠点」というところに関しては特に異論はないのかなと思います。</p> <p>この中の具体的なことに関しては、次回以降、この有識者会議で議論していくことになるかと思いますが、この3つをベースに引き続き検討を行っていくことにしたいと思います。</p> <p>それでは、本日とりまとめた整備コンセプト並びに求める機能・新たに追加する機能の考え方を踏まえながら、事務局より具体的な機能をお示しし、次回の有識者会議以降に、機能や施設の空間的な話、下倉先生にお話しいただいたような空間的な配置、利活用方針などの検討に入っていきたいと思います。</p>
--------------------	--

3 その他報告・連絡事項

<p>田中座長</p>	<p>次にその他報告・連絡事項が2つほどございます。</p> <p>本日は1つ目として、「青山クラブ・桜松館の建物調査結果の中間報告」についてご報告いただきたいと思います。</p> <p>調査を実施された業務受注者である日本工営都市空間株式会社より説明をお願いします。</p>
<p>日本工営</p>	<p>青山クラブと桜松館の今後の活用方針を検討するための基礎調査として、この夏に調査を行いました。その内容について中間報告いたします。</p> <p>調査の内容は、スライド投影資料の一番下に記載のとおり、1.基礎躯体の調査、2.床スラブ等の調査です。</p> <p>基礎躯体の調査は、基礎梁及びフーチングサイズの計測・配筋調査、杭の有無の確認を行っております。</p> <p>床スラブ等の調査は、スラブ及び梁の配筋調査を行っております。</p> <p>次に基礎躯体の調査結果の概要です。</p> <p>まず青山クラブ地下1階の調査です。こちらは、地下ピット内において基礎部分の状況確認を行いました。</p> <p>次に青山クラブの1階部分です。こちらは1階の床スラブ下に地下空間が存在しておりましたので、柱の周囲の掘削を行い、基礎部分の調査を行いました。その結果として、フーチング下部の松杭が腐朽している状況ということが確認できました。</p> <p>続いて桜松館の地下1階部分です。こちらは地下1階の床部分を研って柱周囲の掘削を実施し、地下1階床下の基礎の状況を確認いたしました。こちらは、基礎梁とフーチングが存在しており、フーチングの下部には杭が無いことを確認いたしました。</p> <p>青山クラブの地下1階と桜松館の地下1階は杭が無いということになっておりますが、杭が無いから問題があるということでは無く、フーチングの下が安定した地盤となっており、直接基礎であることが想定されるということでございます。</p>

日本工営	<p>次に床スラブ等の調査の、スラブ配筋調査結果の概要です。</p> <p>床に配されている鉄筋のピッチをレーダーにより探査して配筋状況を調査し、また、床の一部を撤去し、配置されている鉄筋の状況を確認いたしました。</p> <p>床スラブの下にある梁の調査も行いました。梁があると想定される部位においてレーダーにより梁配筋の本数・ピッチを確認し、また、その部分の床を実際に撤去し、梁配筋の鉄筋径及びピッチを計測して確認しています。一般的な鉄筋コンクリート造の梁配筋の状況として、主筋及びあばら筋などを確認しています。</p> <p>こちらの調査結果を踏まえまして、今後青山クラブ・桜松館の構造的な検討を進めていくこととなります。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。この件につきましては、今日の会議に先立ち、11月8日に建築分野に関係する委員の方々、水田先生、松野先生、下倉先生、私（田中座長）で意見交換の場を設けさせていただきました。現在までの調査結果を踏まえた所見もいただいております。その際の内容につきまして、出席委員を代表し松野委員よりコメントをお願いしたいと思います。</p>
松野委員	<p>非常に丁寧に調査をされ、現状が良く分かったというのが第一印象です。</p> <p>また、実際の写真も見せていただき、地下についても、あの時代にこんなに丁寧に作っているのかと思えるくらい、きれいな状態で作られておりました。</p> <p>一方で、地下に妙な空間があることや、その点が、もしかすると弱点になるかもしれないということ、床スラブに鉄筋が少ないのではないかなど、少しずつ懸念すべきところは出てきておりますが、使用目的が決まった上で、どういう補強をするべきかという検討をするには、十分に役に立つ資料だろうと考えています。</p> <p>この結果を用いて、建物がすぐに使えるか使えないかという判断をする材料にするには当然、まだまだ集めていかななくてはいけません、議論を展開する上での貴重な資料になっていると思っています。</p>
田中座長	<p>引き続き、これらの調査結果を基に今後の会議での意見を踏まえながら、建物利活用の方向性について検討を進めていただきたいと思います。</p> <p>続きまして、前回の有識者会議において事務局より報告がありました明和電機の土佐社長へのヒアリングについて、事務局から報告をお願いします。</p>
事務局	<p>土佐社長と実際にお会いし、いろんなことをお聞きしてきました。</p> <p>呉市出身の明和電機の土佐さんは、小学校の時に呉に初めて来たその日の夜に、青山クラブに泊まれたという思い出を持たれているようです。</p> <p>中学校時代はブラスバンド部で、自衛隊の音楽隊から指導を受けたこともあり、桜松館はとても緊張感のある場所だったというエピソードがあります。</p> <p>美術館のイメージもお聞きしました。今回、明和電機の特別展を美術館で開催されましたが、これまでの呉市の美術館とは違うイメージをもってもらい、呉にこんな場所があると認識してもらおうようなきっかけになると良いなど、美</p>

<p>事務局</p>	<p>術館のいろんな使い方や展示の仕方などについても言われておりました。</p> <p>次に幸町地区の総合整備についてお聞きしたところ、一番大切なことは残す・作るという考えだけでなく、人が集まる場所にしていくこととおっしゃっていました。桜松館ホールは残していただきたい機能であるし、子ども連れの拠り所となるような場所は欲しい。アミューズメント的な観点から、将来を担う子どもたちに良い意味で刺激を与えるような、尖った言い方をすればトラウマ的な刺激を含めてとおっしゃいましたが、そういう刺激になるような場所であってほしいと言われておりました。</p> <p>最後に呉の印象についてですが、お祭りも多いしノリは良いが、文化的な視点での盛り上げ方を享受できていない部分もあるのではないかということをおっしゃっていました。</p> <p>呉市におられたということで、土佐社長ならではの呉市の思いをお聞かせいただいたということを報告いたします。</p>
<p>田中座長</p>	<p>私も秋祭りのミニライブを拝見し、青山クラブでの思い出をお話されているのが印象的でした。</p> <p>その話を知り合いの市民に話をしたら、自分もこういうことをそこ（青山クラブ）でやったという話をされていて、やはり呉の皆さんの記憶や思い出に紐づいた場所なのだと改めて実感しました。</p> <p>本日予定していました議事は以上となりますが、本日の会議を通してお聞きして新原市長から何かございますか。</p>
<p>呉市長</p>	<p>土佐社長は、呉で過ごした時のクリエイション、つまりクレエーションがあったからこそ、その後の土佐社長の芸術活動が生まれたと言っておられました。ですので、ぜひクリエイションの場にしていただきたいと思います。</p> <p>明和電機ナンセンスファクトリー展と名付けた“ナンセンス”は、非常識ではなく超常識だと言っておられました。幸町を超常識な場所にもしていただけると嬉しいです。</p>
<p>4 閉会</p>	
<p>事務局</p>	<p>今後のスケジュールをお伝えいたします。</p> <p>本日素案をとりまとめたいただいた成果を踏まえて中間報告資料として整理し、後日、委員の皆様へ共有いたします。その中でコンセプトの副題の部分なども整理させていただければと思っております。</p> <p>その後、有識者会議の検討状況について来年2月に行われる予定の呉市議会総務委員会への報告を行い、次回の第5回会議を2月下旬から3月上旬を目途に開催したいと考えております。詳細な日程は、改めて委員の皆様と調整したいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>田中座長</p>	<p>以上で、本日の有識者会議を終了します。皆様ありがとうございました。</p>